

# 地域の魅力を「掘り起こす」

～大内文化特定地域のまちづくり～

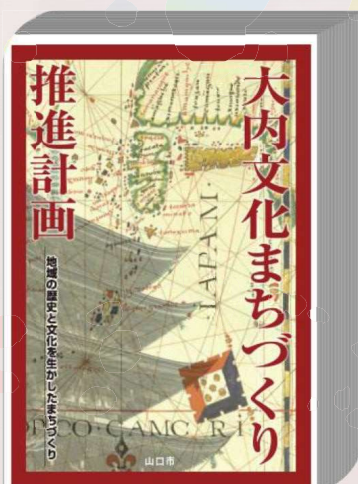
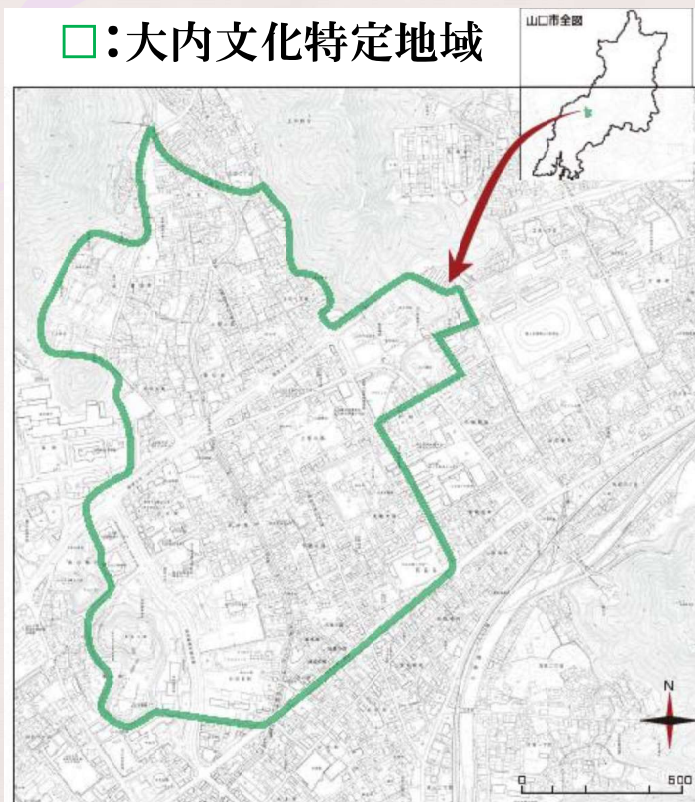


# 大内文化特定地域について

- ・山口市内、山口駅を降りて徒歩15分程度に位置する地域
- ・景観形成重点地区に指定されている「一の坂川」や、国宝の「瑠璃光寺五重塔」など、豊かな自然と歴史的町並みにあふれている
- ・地域の魅力活性化のため、大内文化まちづくり推進計画が進められている



□:大内文化特定地域



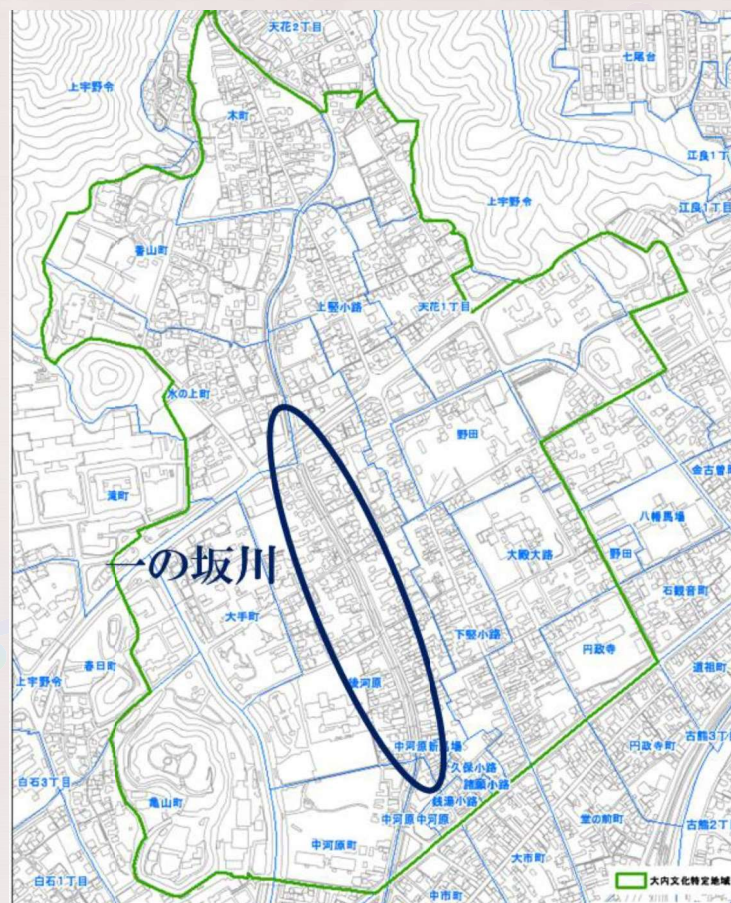
## 基本理念

「大内文化に息づく  
進取の気風を継承し、  
地域の歴史と文化を  
生かして新たな個性  
を創造するまちづくり」

# 魅力

## 1.一の坂川

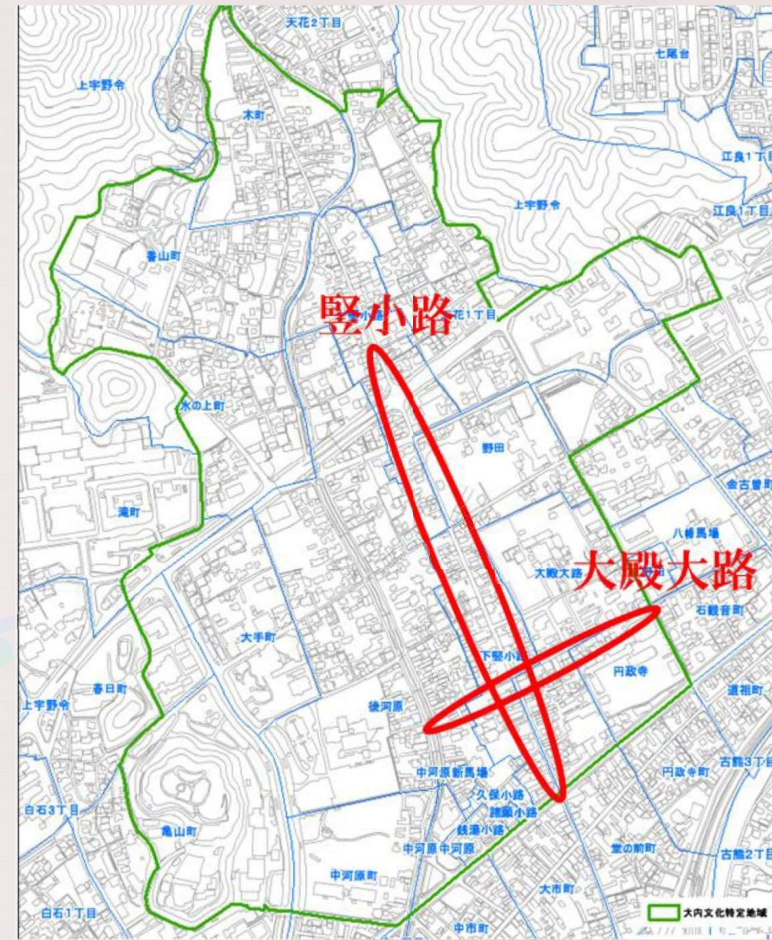
- 景観形成重点地区にも指定されている
- 春には川沿いに桜が咲き誇り観光客が訪れ、初夏には天然記念物のゲンジボタルの乱舞を見ることが出来る。地域住民にもなじみある場所



# 魅力

## 2.歴史的町並み

- 地域内の観光通りとして豎小路、大殿大路などがある
- イベント開催などの地域づくりを担う「ふるさと伝承総合センター」
- 観光客が衣装を借りてまち歩きできる「大路ロビー」
- 八坂神社、龍福寺といった重要文化財



# 現状

## 1. 観光通りとしての印象のうすさ

実際は...

- 伝統的建築物の店や施設が並ぶのは一部
- 空き地や空き家が見られる
- 遠くに山並みが望めるのに、景観的問題も



空き地



空き家



電柱・電線・広告



# 現状

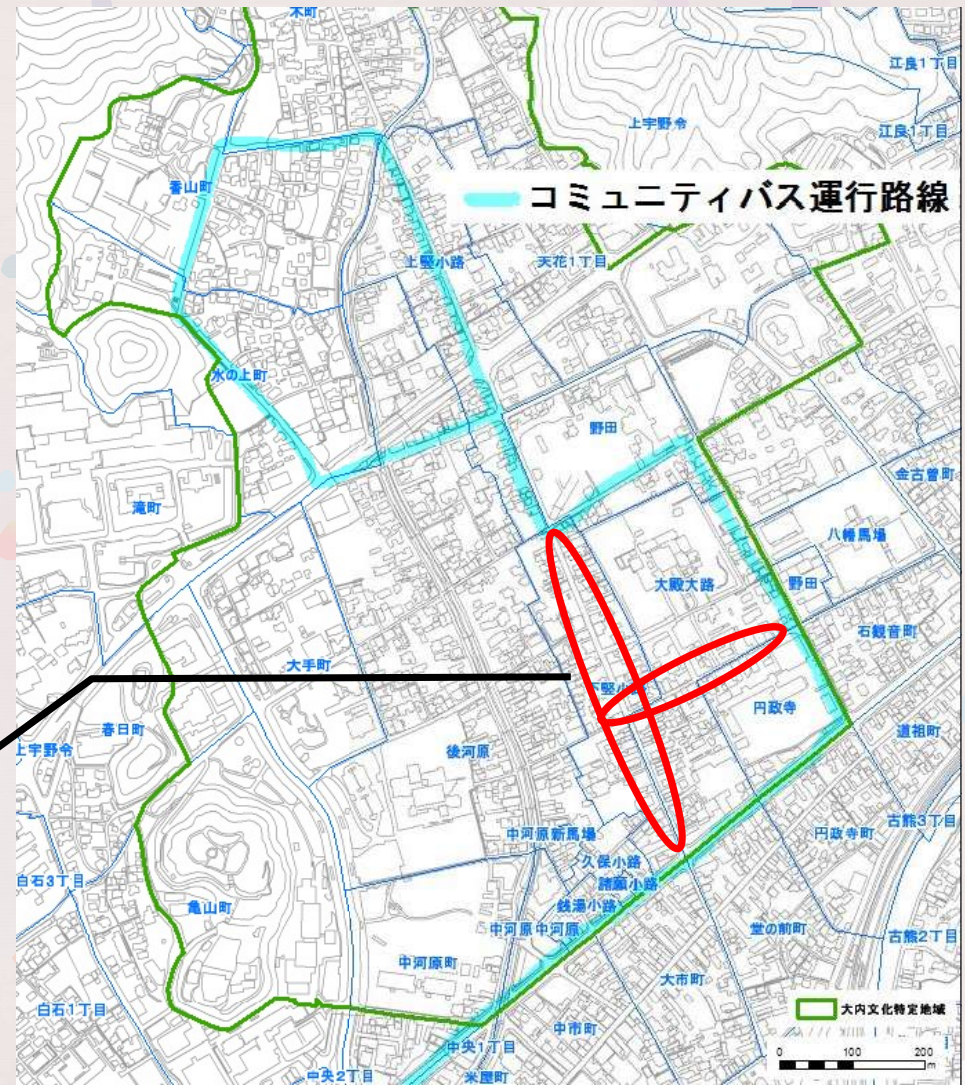
## 2.コミュニティバス



- 1時間毎に運行
- バス以外の車の往来も盛ん
- 車道の確保など、地域住民の快適な利用が優先

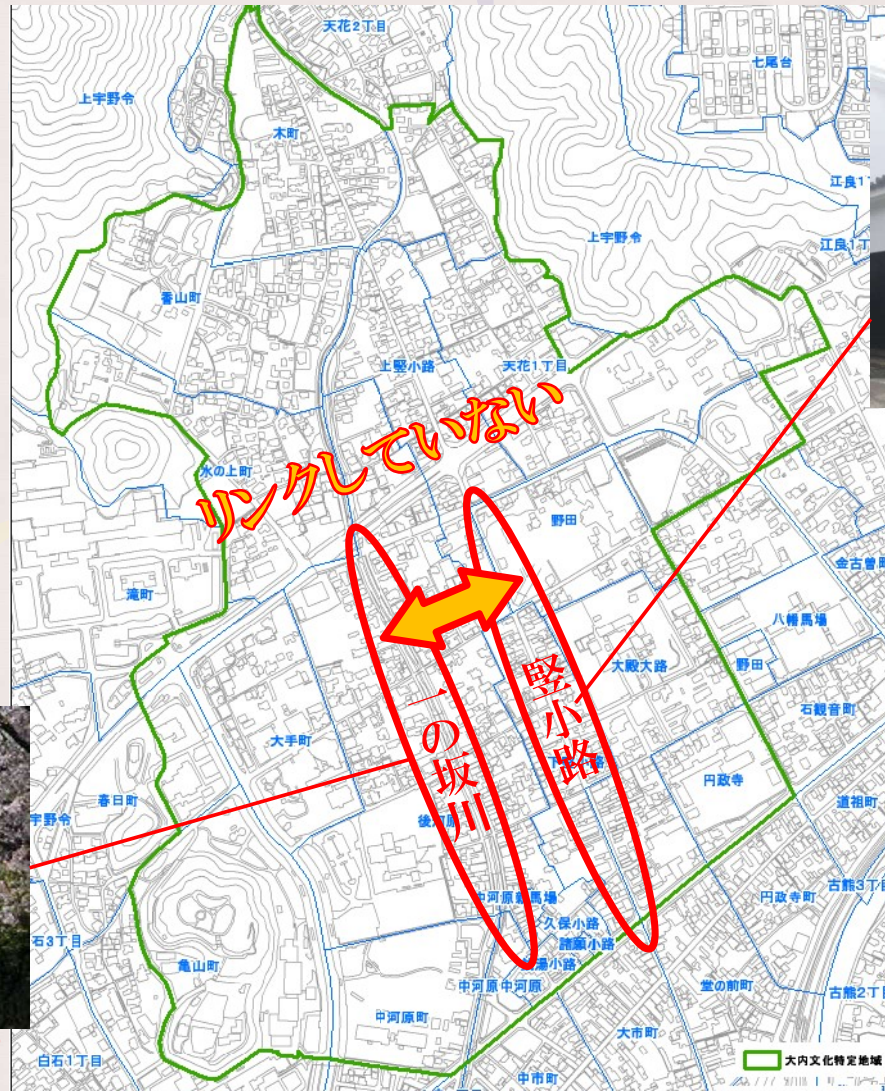
- 下豎小路及び大殿大路は運行していない
- 住民の生活道路でもあるが、観光客にとっては街並みを楽しみたい

↓  
歩行者の安全性向上及び景観的改善が望まれる



# 現状

## 3.空間としてのつながり



### 歴史的街並み

区画が間にあり、両通りをつなぐ小道も店が立ち並ぶ様子はない



- 人通りが少ない
- 相乗効果を生めていないのでは？



### 自然との調和



# 提案

- 観光通りとしての印象のうすさ  
→ 看板等の改善から**観光客**を呼び込める魅力的な通りに
- 安全な歩道を確保したいが一定の交通量もある  
→ 道路舗装によって**歩道・車道の明確な分離**と同時に**景観的配慮**も
- 一の坂川と豎小路の通りの繋がりのうすさ  
→ **自然との共存、歴史的景観との共存**、それぞれで強みを生かす

# 提案

## 1.看板等の改善から観光客を呼び込める魅力的な通りに



- 現在の縦小路入口
- 電線、電柱、広告
- 観光客にはここから観光通りとは伝わりにくい



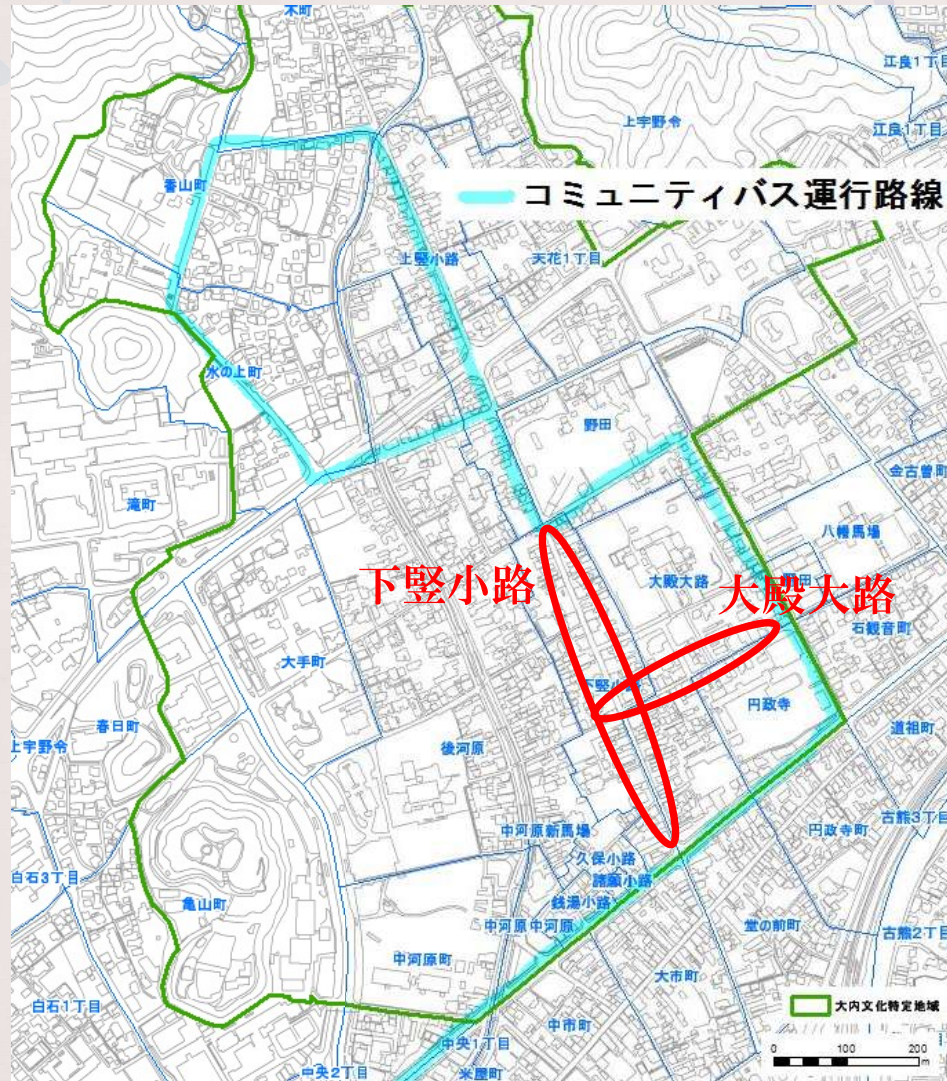
現在の大路・小路名看板  
歴史的景観にあったデザイン

↓  
しかし壁に設置してあるうえ、  
歩いていて目に留まる大きさではない

↓  
この看板も生かし、新たに通りとして  
活気あふれる大路・小路名看板の設置を

# 提案

## 2.道路舗装によって歩道・車道の明確な分離と同時に景観的配慮も



- コミュニティバスの路線上は対向車が交差する十分な幅が必要
- 下豎小路、大殿大路も一定の交通はある
- 観光客にとっては安全に街並みを楽しめる通りである必要がある

↓  
○ : 歩道を石畳にし、安全かつ歴史的景観を作り出す



現在の ○  
車を気にしながらのまちあるきに…

# 提案

## 2.道路舗装によって歩道・車道の明確な分離と同時に景観的配慮も

車道まで石畳の舗装をすれば走行スピードも抑制でき安全な観光通りにできる



しかし住民の生活道路でもある以上、車道まで石畳にするのは適切ではない

石畳舗装は歩道のみにし、明確な分離効果と歴史的街並みとの調和も



全て石畳

写真:京都



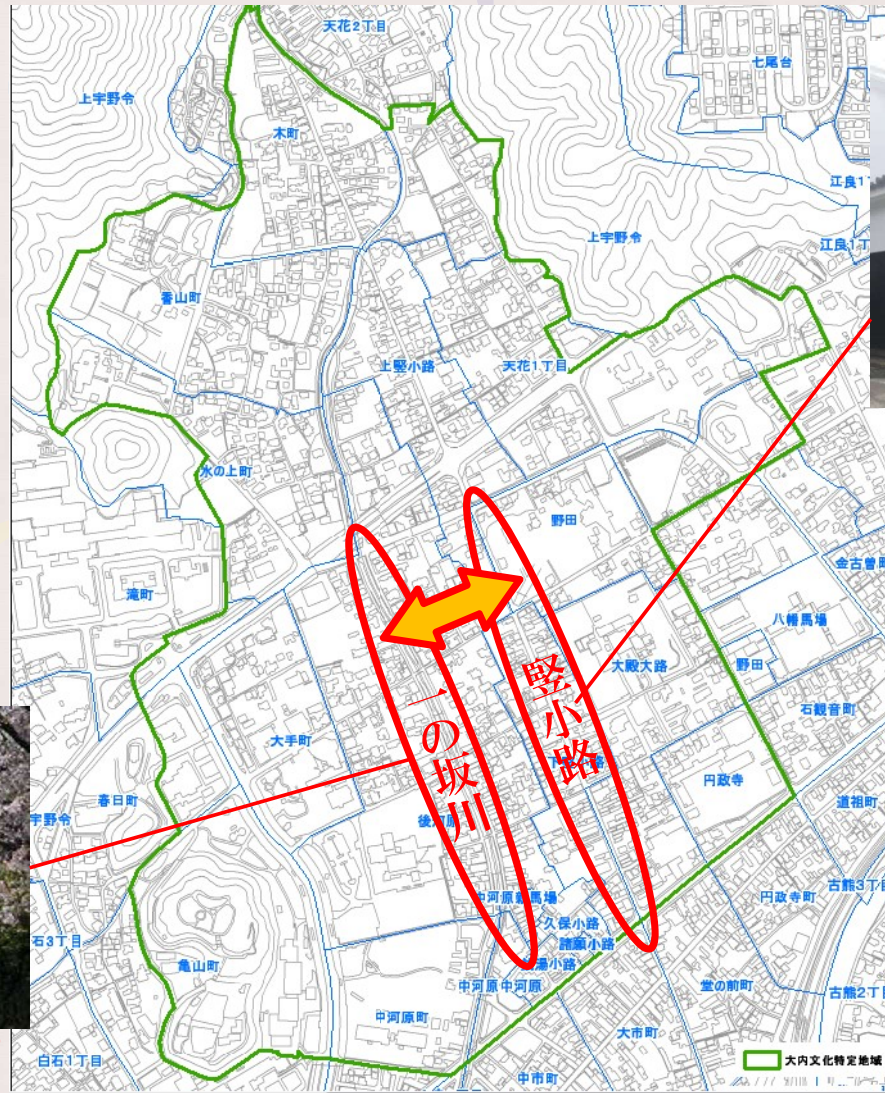
すでに一の坂川に面する通りやその近くの通りは舗装されている場所も



豎小路・大殿大路の通りまで行う

# 提案

## 3.自然との共存、歴史的景観との共存、それぞれで強みを生かす



### 歴史的街並み

間に区画があるため  
2つの通りを1度に  
楽しむことはできない



無理に1つの空間としてつ  
くりだすのではなくそれぞ  
れの通りの良さを生かす



回遊性向上へ



### 自然との調和

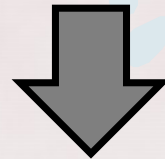
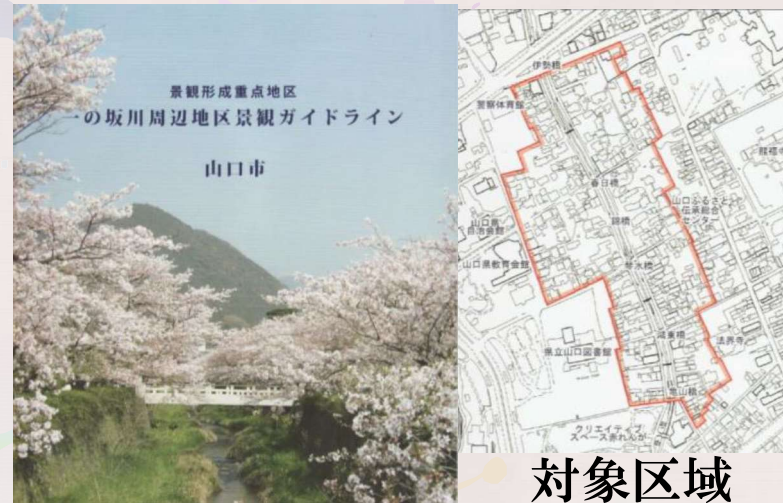
# 提案

## 3.自然との共存、歴史的景観との共存、それぞれで強みを生かす

一の坂川はすでに景観形成重点地区として  
保全のためのガイドラインが作成されている



以前から住民によって積極的に  
景観が保たれてきた



一方で、  
塀小路は自然豊かな空間とは言えない



大内文化特定地域には多くの文化財が存在する  
これらを生かした歴史との共存を

# 提案

3.自然との共存、歴史的景観との共存、それぞれで強みを生かす

この特定地域に1か所ある  
埋蔵文化財の遺跡という魅力をもっと生かす



文化財名称:「大内氏遺跡 附凌雲寺跡」  
指定文化財(史跡)のうち、埋蔵文化財に関連する遺跡

室町時代に西日本一帯に強い勢力をほこった大内氏の館と城跡。大内館跡・築山館(つきやまやかた)跡・高嶺(こうのみね)城跡・凌雲寺(りょううんじ)跡からなる。



発掘調査途中の現場



発掘調査体験

“自分たちで街の歴史を掘り起こす”